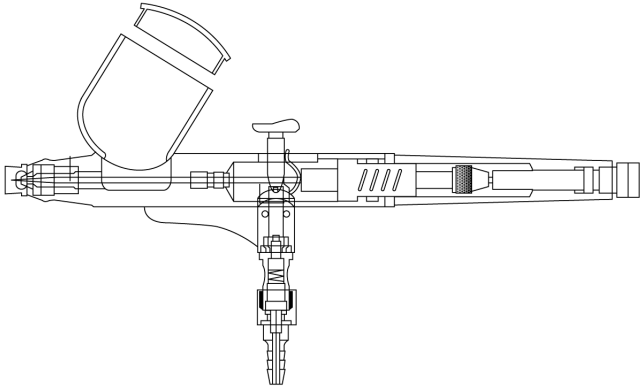
エアブラシ AW-1Xシリーズ

AW-102X,103X,105X

自動センタリング式プラグインノズルタイプ

取扱説明書



この度はエアブラシAW-1Xシリーズをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本製品を安全にご使用頂く為に、必ず取扱説明書をお読みになり、使用方法を十分理解してからご使用下さい。こちらの取扱説明書は大切に保管して下さい。

	エアブラシは塗装する為の道具です。それ以外の用途には絶対に使用しないで下さい。また塗料を噴霧する際には十分に換気をして、乳幼児やペットのいる環境では絶対に使用しないで下さい。

使用上の注意点

- 溶剤系の塗料を使用する場合は火気厳禁です。
- ニードルの先端は非常に鋭く危険な為取り扱いには十分注意して下さい。
- お子様だけでのご使用は避け、保護者の方の監視の元お使い下さい。
- 乳幼児やペットの居る環境での使用は絶対に使用しないで下さい。
- エアブラシは精密機械です。落下や強い衝撃にはご注意下さい。
- 塗装の際はマスクを着用し、十分な換気出来る環境でお使い下さい。

誤った使用用途による故障や事故や損害などが起きましても、弊社では一切の補償、責任を負いかねます。使用中に異常がある場合、ただちに使用を中止して下さい。

製品保証とサポートに関して

当製品は購入後90日間の保証期間があり、初期不良に対しては保証が適用されます。保証に関するお問い合わせは、どうぞお気軽に【エアブラシワークス公式LINE】までご連絡ください。エアブラシサポートチームがスピーディーかつ丁寧に対応いたします。

LINE	お問い合わせは エアブラシワークス公式LINEから LINE 友だち追加

保証対象外の場合

- お客様自身による破損
- 消耗品の自然な劣化
- 取扱説明書の指示に反した使用方法
- 適切なメンテナンスが行われていない場合

＊保証は天災など特殊な事情により変更される場合があります。

エアブラシワークスサポートチーム

エアブラシワークス公式LINEでは、専門知識を持ったエアブラシワークスサポートチームが、エアブラシに関するあらゆる質問に、迅速かつ丁寧にアドバイスを提供しています。製品に関するご不明な点がある場合にはお気軽にご相談ください。

故障と思われる前に

故障と思われる前に、エアブラシのトラブルシューティングをご確認ください。多くの場合、エアブラシは実際には壊れておらず、正しい調整や使用方法の理解不足が原因であることがあります。そのため、使用前には必ず取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いいただくことをお勧めします。

エアブラシのトラブルシューティング

ご使用前の注意事項

・本体に残ったテスト用の液体について

本製品は出荷前に全ての製品に吹付けテストを実施しております。そのため、テスト用の液体が本体に若干残っている場合がございます。予めご了承ください。

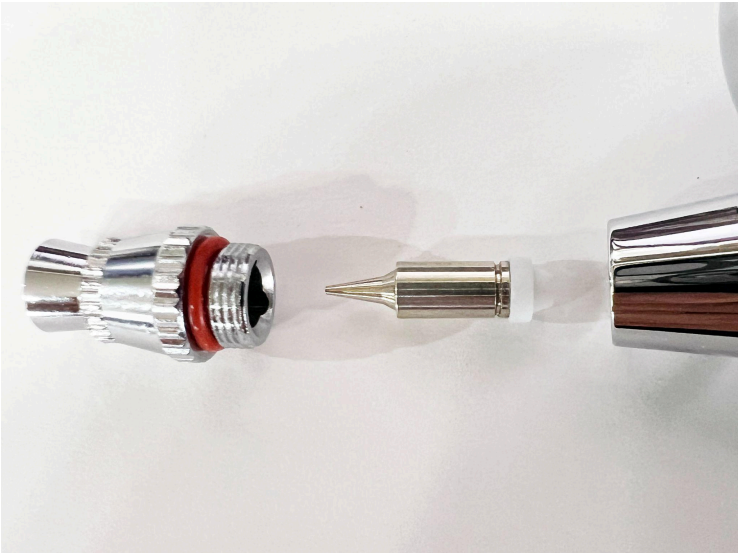
・ニードルの調整による塗料の漏れについて

出荷前には、全製品に対してニードルの位置を最適な状態に調整しています。この「最適な位置」とは、塗料がギリギリ出ない位置を指します。この状態がエアブラシを最も扱い易くします。

しかし、塗料がギリギリ出ない位置が故に気温の変化などのわずかな環境変化により、ニードルの位置がずれることがあります。これにより、新品の状態であっても塗料が漏れてしまうことがあります。

ニードルの調整は、エアブラシの使用において全ユーザーが行うべき重要なメンテナンス作業です。したがって、新品時でもニードル調整によって解決可能な塗料の漏れは、**90日間の保証対象外**となります。

・プラグインノズルについて



AW-1Xシリーズのノズルは、ノズルキャップを外すとノズルも一緒に外れる仕様です。故障ではありません。従来のネジ式ノズルと違い、使用後はノズルキャップごと外して、ノズルとノズルキャップ内を毎回洗浄できます。

ノズルとノズルパッキンは、ノズルキャップを締め込むだけで固定されます。工具で押し込んだりせず、「ノズルの組み付け」の手順に沿って組み付けてください。工具での押し込みなどにより変形したノズルパッキンは、保証の対象外となります。

この**3**点については予めご理解いただけますと幸いです。

エアブラシAW-102X,103X,105X

AW1シリーズは0.2、0..3、0.5mmのバリエーションがあり、細吹きから太吹きまでオールマイティーに使用出来るエアブラシです。エアブラシアートからホビーまでさまざまな場面でご使用頂けます。

エアブラシ本体、取扱説明書



仕様表

動作方式	ダブルアクション
ノズル口径	AW-102X 0.2mm AW-103X 0.3mm AW-105X 0.5mm
カップ容量	7cc
最低圧力	0.06Mpa
最適圧力	0.12Mpa
最大使用圧力	0.4Mpa
最細ライン幅	AW-102X 0.6mm AW-103X 0.6mm AW-105X 0.8mm

AW-1Xアップデート内容

AW-1Xシリーズは、従来のAW-1Xシリーズをさらに扱いやすくするため、ノズル構造や各部の操作感、霧化性能を見直したアップデートモデルです。

1、プラグインノズルを採用

従来のネジ式ノズルから、自動センタリング式プラグインノズルへ変更しました。ノズルを差し込むだけで適切な位置にセットされるため、細かなセンター調整が不要になりました。また、ノズルの取り外しが簡単になり、清掃やメンテナンスも行いやすくなっています。

2、各部パーツの操作感を改善

トリガーや内部パーツの精度を見直し、より滑らかに操作できるよう改善しました。押し引きの動きが安定することで、塗料の出し始めや細かな吹き付け調整がしやすくなっています。

3、ニードルを鏡面仕上げに変更

ニードル表面をより滑らかに仕上げることで、塗料の流れが安定しやすくなりました。これにより、細吹きから広い面の吹き付けまで、より繊細なコントロールがしやすくなっています。

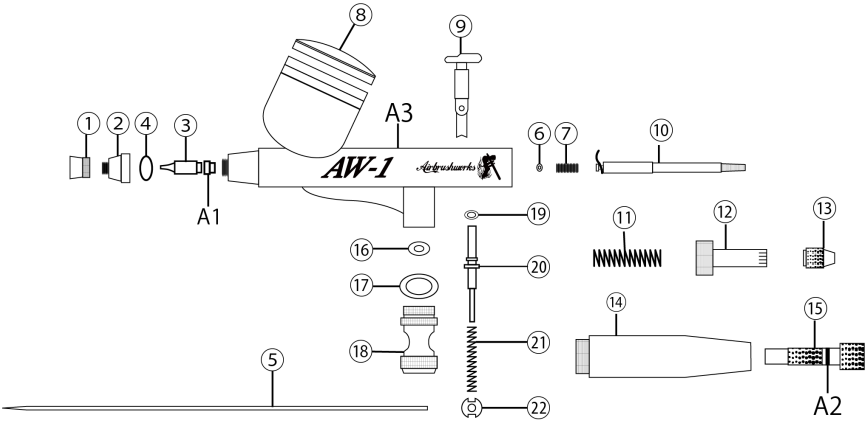
4、霧化性能を向上

ノズルキャップ周辺のエアー経路を見直し、低圧でも塗料が細かく均一に噴霧されやすい構造へ改善しました。従来のAW-1シリーズの扱いやすさはそのままに、よりなめらかで安定した吹き付けが可能です。

5、カップ内の仕上げ精度を向上

塗料カップ内の仕上げ精度を高めることで、塗料残りを抑え、清掃しやすくなりました。また、カップ蓋の装着感も安定し、より快適にお使いいただけます。

エアブラシAW-102X,103X,105X分解図



1	ニードルキャップ	14	テールキャップ
2	ノズルキャップ	15	ニードルアジャスター ASSY
3	ノズルASSY（A1付き）	16	押しボタンOリング
4	ノズルキャップOリング	17	バルブOリング
5	ニードル	18	バルブボディー ASSY
6	ニードルパッキン	19	バルブロッドOリング
7	ニードルパッキンネジ	20	バルブロッド
8	塗料カップ蓋	21	バルブスプリング
9	押しボタン	22	バルブスクリュー
10	ニードルガイド	A1	ノズルパッキン
11	ニードルスプリング	A2	ニードルアジャスターOリング
12	スプリングガイド	A3	エアブラシボディ
13	ニードルナット		

エアブラシの使用前の準備

1 コンプレッサーの選択

AW-1Xシリーズを使用するためには、コンプレッサーが必須です。最適な性能を得るためには、8L/min以上、できれば15L/min以上のコンプレッサーを推奨します。充電式コンプレッサーも噴霧用途には利用できますが、AW-1Xの全性能を活かすには据え置き型のコンプレッサーがおすすめです。

2 圧力の設定

AW-1Xシリーズが最も良好な性能を発揮するための推奨圧力は**0.12MPa**です。

ただし、使用する塗料の粘度や吹き付けたい表現によって、適切な圧力は変わります。細吹きや低圧での繊細な吹き付けでは0.12MPa前後を目安にし、塗料の出方が弱い場合や、広い面を吹き付ける場合は、少しずつ圧力を上げて調整してください。

最大使用圧力は0.4Mpaとなります。それ以上の圧力で長時間使用するとエアーバルブのパッキンが破損する場合があります。必ず0.4Mpa以下の圧力で使用して下さい。

3 塗料の選択と調整

AW-1Xシリーズのニードルパッキンにはテフロンが採用されているため、溶剤系の塗料も問題なく使用できます。ただし、エアブラシは細いノズルを持つため、粘度が高すぎる塗料は適していません。粘り気が強い塗料は専用の希釈剤を使用して希釈することをおすすめします。

4 ニードルキャップの取扱い

エアブラシを使用する際には、ニードルキャップを取り外すことで最適な性能を得られます。キャップが取り付けられたままでは、ノズルキャップ部分に塗料が溜まり、うまく吹き付けることができなくなることがありますのでご注意ください。

エアブラシの操作方法

動作確認

ご使用開始前に、エアブラシの動作確認を行ってください。希釈剤や水など粘度の低い液体でエアブラシの吹き付けテストを行って下さい。

操作方法

AW-1Xシリーズの操作はダブルアクション方式を採用しています。
これは、「エアーを出す操作」「塗料を出す操作」この2つの操作が必要であることを意味します。2つの操作は以下の通りです。

押しボタンの操作

押すとエアーが出る	押しながら引くと塗料が出る
	

1,まずエアーだけを出す

ボタンを押すとエアーが出ます。初めての方や慣れない方は、このボタンを常に押したままの状態で操作を始めることをお勧めします。これにより、エアブラシから常にエアーが噴出される状態が維持されます。なお、この段階で塗料も出る場合、故障ではなく、ニードルの調整が必要です。詳しくはP25「ニードルの調整方法」を参照してください。

2,引いて塗料を出す

ボタンを押しながら後ろに引くと塗料が噴出します。ボタンを押し続ける中で、後ろに引く動作の強弱で塗料の量を調節できます。初心者の方は、ボタンを押し続けた状態で、塗料の出し入れだけに集中することで、より繊細かつスムーズに操作が行えることが出来ます。

弊社のエアブラシ指導からのアドバイス

弊社が20年以上運営してきたエアブラシスクールの経験から、多くの方が「押す」と「引く」の2つの動作を同時に行うのを難しく感じることが判明しています。このため、エアーを継続的に噴出させ、塗料の出し入れの操作にだけ集中するアプローチをおすすめします。これにより、多くの方がエアブラシをよりスムーズに操作できるようになったというデータがあります。

エアブラシの使用時には、使用を開始すると同時にエアーを出し始め、終了時にエアーを止めることが大切です。この手順を守ることで、終了時に塗料のミストを散らかすミスを防ぐことができます

塗料のミストを飛ばしてしまうミス



こちらの操作を水又は希釈剤にて行って下さい。
不具合が発生した場合、トラブルシューティングを参照して下さい。

塗料の混ぜ方

塗料をエアブラシのカップに入れる前に、希釈が必要な塗料は、先に希釈剤をカップに入れてください。その後に塗料を加えます。塗料を先に入れると、濃い部分がノズルの先端に留まり、適切に混合されなくなる可能性があります。一方、希釈が不要な塗料は直接カップに注ぎ入れてください。



カップに塗料と希釈剤を入れたら、画像に示すようにノズルの先端を軽く押さえ、エアーを逆流させて混ぜ合わせます。これにより、約20～30秒でカップ内の塗料と希釈剤を均一に混ぜることができます。

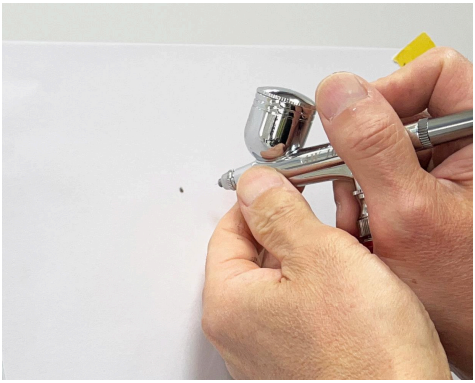


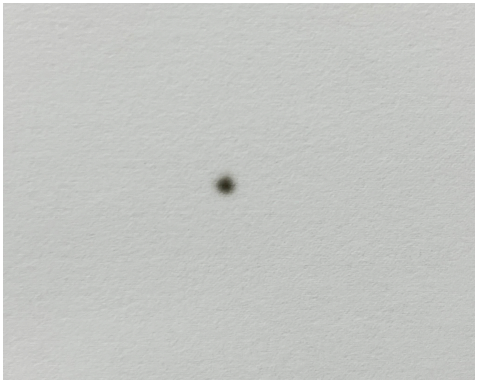
ニードルキャップを外している場合は画像の様に指で摘むと逆流します。上手く逆流しない場合はウエスなどで摘むと良いです。

エアブラシの使用方法

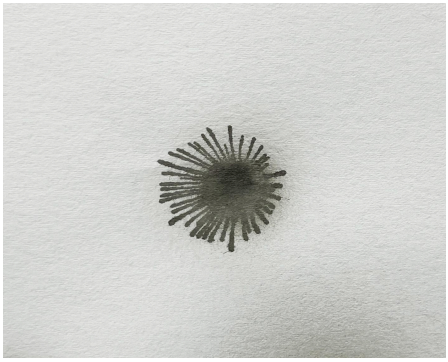
本製品はダブルアクションとなっており、ボタンを押しながら引くことで塗料を噴霧できます。先ほどの説明の通り、エアーは常に押して出し続け、塗料の量を調整するためにボタンを引いたり戻したりします。

エアブラシを対象物に近づけて、押しボタンを僅かに引きながらドット（点）を吹いてみます。





エアブラシを対象物に近づけたので、小さなドットが描けます。

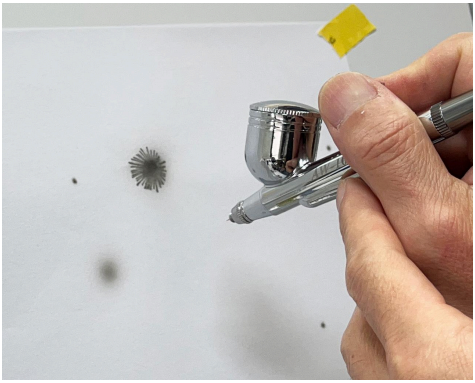


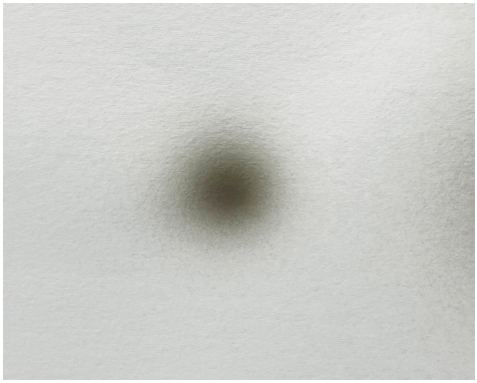
次は同じ距離で押しボタンを沢山引きます。

すると塗料が滑って花火の様な模様が出来ます。

これは画面に付着した塗料が乾く前に次の塗料が付着して、塗料が滑っている状態です。

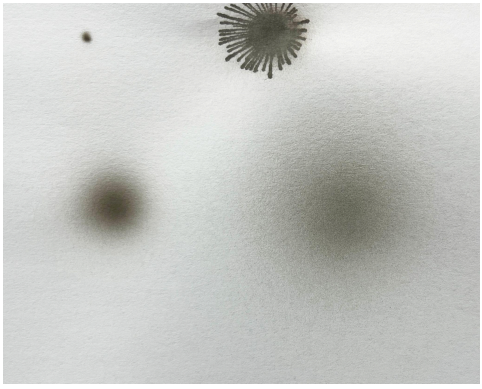
今度は距離を離して押しボタンを少しだけ引いてみます。





先程よりも大きなドットが描けます。

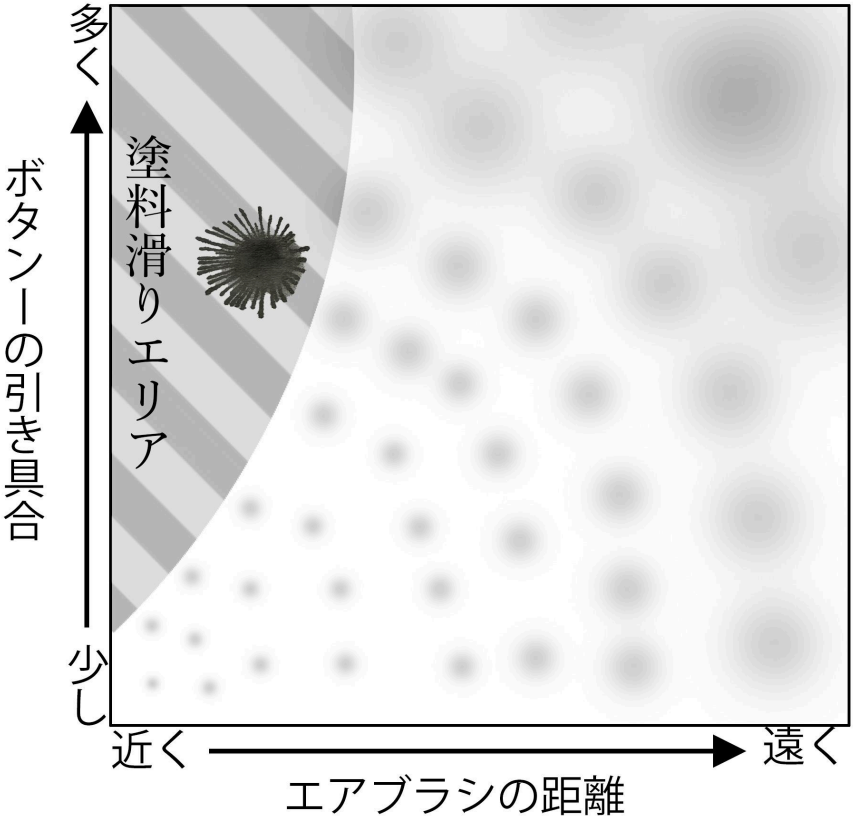
今度は同じ距離で押しボタンを沢山開けます。



すると先程よりも数倍大きなドットが描けます。

エアブラシは距離とボタンの引き具合でパターンの大きさが変化します。

エアブラシの塗装パターンの大きさ



エアブラシの塗装パターンは、「エアブラシと対象物の距離」や「押しボタンの引き具合」によって変わります。押しボタンを多く引くことで、距離を離すよりもパターンが広がることがポイントです。

しかし、近い位置でボタンを強く引きすぎると塗料が滑ってしまいます。このため、距離とボタンの引き具合のバランスを練習し、適切な範囲での塗装をマスターしてください。注意点として、使用する塗料の粘度も影響を及ぼすため、希釈剤で調整して下さい。

エアブラシ練習方法のお勧め

弊社が20年以上運営していた「エアブラシアートスクール」の内容をオンラインプラットフォームに再現し、会員登録するだけで、リアルスクール1ヶ月分のカリキュラムを無料で学ぶ事が出来ます。

エアブラシアートだけでなく、プラモデルやメイクなど様々な使用用途の方にもこのカリキュラムでエアブラシの基本操作を応用出来ます。有料エリアもありますが、無料エリアだけでも本格的なプロが教えるエアブラシの基本操作を学べますので、是非この機会にエアブラシの基本操作を学んでみて下さい。

エアブラシオンラインスクール入門編



エアブラシのメンテナンス

エアブラシは精密に作られていますので、使用後の掃除と、定期的に分解するメンテナンスが必要です。

使用後の掃除

水性の場合



水性塗料の場合は水道やバケツなどに水を張って洗浄します



水が透明になるまでブクブクと逆流させます。逆流のみだとノズル内に空気しか入って来ませんので、吹き付けと逆流を交互に繰り返すのがポイントです。



洗浄液と硬めの筆を使い、固まってしまった塗料を溶かし洗浄します。筆は豚毛の平筆が腰があって良いです。

油性（溶剤）の場合



シンナーなどの洗浄液をカップに入れ、吹き付けと逆流を交互に繰り返し、洗浄液が透明になるまで繰り返します。



ウエスや固めの筆などで周りに付着した塗料を洗浄します。



最後にシンナーなどの洗浄液を入れ逆流した時に透明になっていればOKです。

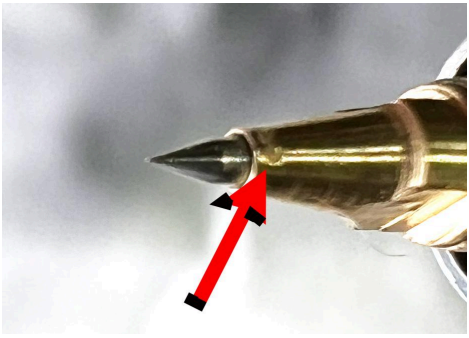
ノズル周りの清掃

【重要】ノズル周りとノズルキャップ内の清掃

ノズルとノズルキャップ内部は、エアブラシの性能を左右する最も繊細かつ重要な部位です。わずかな汚れや塗料の付着であっても、エアブラシ本来のパフォーマンスには大きな影響が生じます。常に最良の状態でご使用いただくために、メンテナンスの要として取り組んでください。

トラブル事例：一度の使用で塗料が出なくなる原因について

お客様より「到着後に動作確認を行い、問題ないと感じたのも束の間、たった一回の使用でエアーが噴出しなくなり、使用不能に陥りました。長年、数多くのエアブラシを愛用してまいりましたが、一度で使えなくなる経験は今回が初めてです」という内容で、製品のご返品をいただきました。



これを受け、弊社サポートチームにて詳細な調査を行った結果、故障の直接的な原因は、図の矢印で示したノズル内部の汚れであることが判明いたしました。

エアブラシに精通された熟練のユーザー様であっても、先端部に蓄積した極めて微細な汚れや乾燥した塗料の付着は見逃してしまうことが多々ございます。

上の画像が示すように、先端付近に僅かでも塗料が残留し固着すると、霧化性能は著しく損なわれ、正常な動作を妨げる要因となります。この部位は極めて精密かつデリケートな構造であるため、目視では判断が難しい微

量な付着物であっても、動作不能を引き起こす可能性があることを十分にご理解いただけますと幸いです。

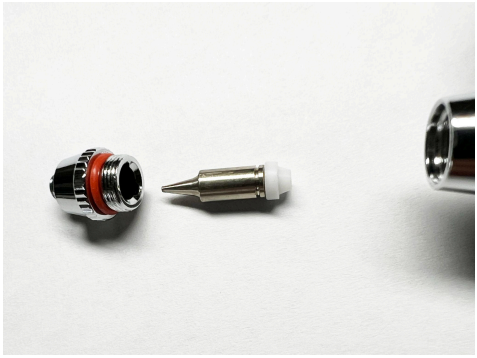
結論・メンテナンスの推奨

エアブラシの性能を最大限に維持し、トラブルを未然に防ぐために、作業終了時には必ず「ノズル周辺」および「ノズルキャップ内部」の徹底した洗浄を行ってください。この部分を常に清潔に保つことが、長期間にわたってエアブラシを快適に使い続けるための最も重要なポイントです。

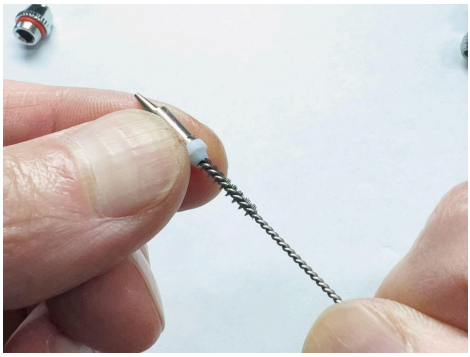
ノズルおよびノズルキャップの分解

本製品に採用されているプラグインノズルは、ノズルキャップを取り外すだけでノズル本体も同時に分解できる革新的な構造です。従来のネジ固定式と比較して、清掃時の手間が大幅に軽減され、極めて容易なメンテナンスを実現しています。





キャップを緩めるとノズルが共に外れるため、作業時にはパーツの脱落や紛失に十分ご注意ください。不用意な落下を防ぐよう、慎重に取り外してください。





ノズル本体の清掃には、洗浄液を含ませたブラシや筆などを使用し、外周および内側の汚れを丁寧に取り除いてください。



ノズルキャップの内部についても、筆やウエスを用いて残留した塗料を確実に洗浄します。

この部位はエアの流路として機能するため、極微細な汚れであっても霧化性能を損なう原因となります。動作に不調を感じた際は、まずこの箇所の清掃を徹底することで、多くの問題が速やかに解決いたします。



複数のエアブラシをお持ちの場合は、別の機体から洗浄液を吹き付けて汚れを洗い流す方法も、非常に高い洗浄効果が得られるためお勧めです。

ノズルの組み付け





組み立ては、ノズルをキャップ内にセットして締め込むだけのシンプルな工程です。自動センタリング機能により、挿入するだけで正確な位置が保持されるため、従来のネジ式のような煩雑なセンター調整は一切不要となり、作業効率が飛躍的に向上しています。

⚠️ ノズルパッキンを工具で押し込まないでください

プラグインノズルは、ノズルキャップを締め込むことで、ノズルとノズルパッキンが本体に押し付けられて固定される構造です。ノズルやノズルパッキンだけを先に本体へ固定する必要はありません。

従来のネジ式ノズルのエアブラシに慣れている方ほど、ノズルやパッキンを先に本体へはめ込もうとしがちです。細い金具や工具でノズルパッキンを押し込むとパッキンが変形し、その隙間からエアーが塗料カップへ逆流する（うがい状態になる）原因になります。

正しい組み付け手順
1、ノズルパッキンはノズルに付けた状態のままにします。
2、ノズルをノズルキャップに差し込みます。
3、ノズルキャップごと本体にねじ込み、指で奥までしっかり締め込みます。
工具は使いません。

ノズルパッキンが外れた場合は、指でノズルに戻してから同じ手順で組み付けてください。

エアーが塗料カップへ逆流する場合は、次の3点を確認してください。
- ノズルキャップが奥までしっかり締まっているか
- ノズルパッキンと本体の接触面に、塗料やゴミが付いていないか
- ノズルパッキンが変形していないか

工具での押し込みなどにより変形したノズルパッキンは、保証の対象外となります。ノズルパッキン（分解図A1）はアフターパーツとしてお求めいただけます。

定期的なメンテナンス

定期的なメンテナンスはエアブラシを全て分解するオーバーホールを行います。エアブラシは構造上長く使用しているとニードルパッキンが緩んでテールエリアに塗料が漏れて来ます。塗料がテールエリアに漏れ出すと初期段階としてエアーが止まらない現象が現れます。そのまま使用していると、2次的なトラブルを次々と発生させますので、エアーが止まらない現象が起きた時点で全て分解してオーバーホールをお勧めします。

オーバーホールは弊社から発売している「エアブラシメンテナンAll-in-oneキット」を使用すると便利です。下記のリンクには「エアブラシメンテナンAll-in-oneキット」とエアブラシのオーバーホールの手順が記載されていますので、参考にしてみて下さい。

エアブラシメンテナンAll-in-oneキット



ニードルの調整方法

ニードルの調整はエアブラシの使用において全ユーザーが行うべき重要なメンテナンス作業です。出荷時にベストな位置で調整してありますが、気温など少しの環境変化でニードルの位置が変わりますので、お客様ご自身で再調整が必要となります。



テールキャップを取り、ニードルナットを緩めます。軽く緩める程度で良いです。



エアーを出しながら塗料の止まる所までニードルを奥に押します。

塗料が漏れないギリギリの状態がエアブラシを最も扱い易くします。

塗料が止まらない場合、ニードルを更に奥に押し込んでください。AWシリーズのノズルは銅製で強度が高いので、多少強く押し込んでも変形しません。塗料が漏れてしまうノズルは調整次第で扱い易いエアブラシにもなります。

調整しても塗料が漏れてしまう場合、初期不良のみ保証の対象となります。サポートチームにお問合せ下さい。塗料を入れて使用したエアブラシについてはゴミが詰まっている可能性がある為、保証の対象外とさせて頂きます。

スプリングガイドの調整方法

スプリングガイドは、エアブラシの押しボタンを引く際の硬さの調整に使用します。この部品を締めるとボタンが硬くなり、逆に緩めると柔らかくなります。自分の好みに合わせて調整してください。しかし、あまりにも強く締めたり、逆に緩め過ぎたりすると、不具合が発生しますので、下記の注意点を守って下さい。

- スプリングガイドを強く締め過ぎると、ボタンを十分に引けなくなり、塗料の出方が悪くなります。
- スプリングガイドを緩め過ぎると、ニードルが正しく戻らなくなり、塗料が止まらない問題が起こります。

このため、適切な締め具合で使用することが重要です。

スプリングガイドを目一杯締めた状態	適度な締め具合の状態
	

ニードルアジャスターの使い方

ニードルアジャスターは塗料の吐出量を一定に保つ機能です。通常は押しボタンを全開に引いた状態に合わせます。



ニードルアジャスターを絞ると、一定の吐出量で塗料を噴霧する事が出来ます。初心者の方が細いラインを描く時などに有効です。

ただし、エアブラシは押しボタンの引き具合で自由に吐出量をリアルタイムに調整出来る事が長所の1つなので、ニードルアジャスターを絞り吐出量を決めてしまうと、エアブラシの長所を消してしまう事にもなります。

エアブラシのプロとして操作する私からのアドバイスは、エアブラシの操作に慣れて来たらニードルアジャスターは全開の位置で固定して、自由に押しボタンを操作するのが良いと思います。

ニードル･ノズルの交換に関して

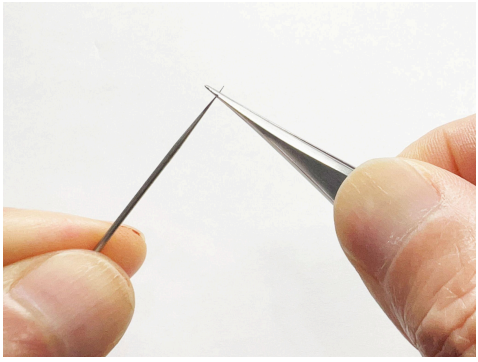
エアブラシを構成するニードルおよびノズルは、使用頻度に応じて摩耗する消耗品です。本来の性能を維持するため、定期的な交換が必要となります。

交換用パーツのお求めについて

各種メンテナンス用パーツは、弊社公式ストアのアフターパーツ販売ページよりいつでもご購入いただけます。

ニードルの変形が生じた際

先端が曲がってしまった場合、ピンセット等を用いた応急的な補修も可能ですが、極細の描画においてニードルの精度は極めて重要です。繊細なコントロールを要する場合は、速やかな新品への交換を推奨いたします。



変形が生じた際には、ピンセットを用いて曲がった箇所を先端方向へ引き出すように補修を行ってください。

曲がりが僅かな場合について

軽微な変形であれば、サンドペーパーで先端を研磨することで再利用が可能です。1500番から2000番程度のペーパーを用いて回転させながら鋭く整えてください。さらに、2000番、4000番、8000番の順で丁寧に磨き上げることで、ニードル表面を美しい鏡面仕上げにすることも可能です。

ノズルの交換に関して

本製品に採用されているノズルは銅製であり、一般的な真鍮製と比較して極めて高い耐久性を誇ります。しかしながら、ノズルは使用に伴い摩耗する消耗品です。不測の落下による変形や、長期間の使用で先端に亀裂が生じた場合には、本来の性能を維持するため速やかに新品へ交換してください。

交換を推奨するタイミング

- 落下などの衝撃により先端に変形が認められる場合
- 先端部の破損や、経年劣化による摩耗が確認された場合

エアブラシの動作に不調を感じた際、ノズルパーツを一新することで劇的に改善するケースが多くございます。作業を滞りなく進めるために、予備のノズルを常備しておくことをお勧めいたします。

トラブルシューティング

エアブラシの操作中に何らかの問題を感じた場合は、以下のトラブルシューティングの指針をご参照ください。これらはお客様からのフィードバックを基に、そこで受けた膨大な質問に基づいて構築されたものです。このガイドは、エアブラシのほとんどの一般的なトラブルに対する解決策を提供し、迅速に問題を解決するための助けとなることでしょう。

エアブラシのトラブルシューティング

症状1　塗料が出ない

症状2　塗料は出るが調子が悪い

症状3 塗料の塊が定期的に出る

症状4 エアーが出ない（空気が出ない）

症状5 エアーが止まらない

症状6 エアーが僅かに漏れる

症状7 細い線が出ない

症状8　エアーが逆流する（うがい状態になる）

症状9 塗料が漏れる

症状10 ニードルが動かない

症状11 線が途切れる

症状12 エアブラシから水が出てくる

エアブラシワークス

【エアブラシワークス】は、エアブラシアーチストChuuta氏が創設したエアブラシブランドです。自ら操作する観点から、ユーザーにとって扱い易いエアブラシを追求し、さまざまなエアブラシワークの可能性を広げます。

エアブラシワークス	エアブラシオンラインスクール
AWシリーズストアー	エアブラシアフターパーツ

LINE	お問い合わせは エアブラシワークス公式LINEから LINE 友だち追加

販売元
株式会社エアブラシワークス
https://airbrush.works
〒420-0801
静岡県静岡市葵区東千代田1-7-4　2F
TEL 054-689-2976
info@airbrush.works